【 81 】

| | |
|---|---|
| 氏名 | 米澤　優 |
| 学位の種類 | 医学博士 |
| 学位授与番号 | 乙第1683号 |
| 学位授与の日付 | 昭和61年9月30日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当） |
| 学位論文題目 | **胎児発育とポリアミン代謝に関する研究** |
| 論文審査委員 | 教授　産賀敏彦　　教授　木本　浩　　教授　佐伯清美 |

## 学位論文内容の要旨

胎児発育過程におけるポリアミンの意義を明らかにするため，ラットを用い正常発育過程および実験的子宮内発育遅延仔における組織中ポリアミン濃度の変動を検討した。

ポリアミンは正常発育過程の肝，脳において胎生期，新生仔期には成熟期に比べ高値を取り加齢とともに減少したが，量的にはプトレッシンに比べスペルミジン，スペルミンが多く，特にスペルミジンは胎生期，新生仔期に高値を維持した。一方，成熟期との比較をした場合，特にプトレッシンの胎生期における著しい高値が特徴的であった。胎盤ではポリアミンの変動は少なく，発育に伴うポリアミンの変動パターンには臓器特異性が見られた。

実験的子宮内発育遅延仔における重量変化の検討で脳，胎盤に比べ代謝の中心臓器としての肝の重量減少が著しく，ポリアミン量の変化としては肝におけるプトレッシンの有意の減少，スペルミジン，スペルミンの有意の増加が特徴的であった。

以上のことより胎児発育とポリアミンとの間に密接な関連が示唆され，ポリアミンのうちでは，特にプトレッシンが重要な役割を果たしているのではないかと推測された。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は，胎児発育過程におけるポリアミンの意義の解明を目的とする研究であるが，正常発育および実験的子宮内発育遅延ラット胎仔を用いて，発育過程における胎仔臓器および胎盤中の各ポリアミン濃度の変化を比較し，胎仔発育とポリアミンの関連について重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。